

(様式3)

## 自己評価結果票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>グループホーム独自の理念はないが、せりりょう園の理念として地域の中で利用者が生活能力を十二分に発揮して、最期まで尊厳を保つ生活ができるよう、ケアプランに反映させ作成している。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>月1回の職員全体の処遇会議。月1回のグループホーム会議。1日2回のミーティング。日常的な回覧物等で理念を共有、再確認し、個々の利用者の介護に反映される様取り組んでいる。</p>	<p>8/16に1名、8/28に1名の利用者の方が、不要な医療行為を受ける事なく、家族・親族の日常的な介護・看護を受けながら、グループホーム内で永眠されている。いずれも大きな苦しみも無く、家族も感謝されている。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>月1回理念に基づいた機関紙を発行し、家族に送付している。月1回「介護者の集い」を地域支援センター職員が中心となり開催し、情勢に見合ったテーマでの事例報告やディスカッションが行われている。</p>	<p>外出される利用者の立ち寄り店舗等に協力要請し理解をいただき、職員が見守りする事なく利用者がスムーズに買い物を楽しまれるなどが日常化している。警察署への捜索願いの届け出の際は、園の理念を伝える事で、共感する担当官も生まれてきている。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>日中施設と外部との間に柵等の囲いはない。又、施設は住宅の中にあり、近隣の住民や登下校の子供達が常に通行しており、あいさつを交わしている。職員駐車場も住宅の中にあり、出勤や退園時に出会う住民の方とあいさつを交わしている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>小学校の音楽会や運動会・敬老会に参加。小学校からは学童が数名で来訪し、出し物等による交流。又、秋祭りには子供みこしが園の前に来て、利用者も楽しまれている。園の行事としては、花見・夏祭り・運動会・クリスマス会や年2回のクラシックコンサートの参加を呼びかけ、地域の方との交流を深めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		<p>7月の「介護者の集い」では“認知症サポーター養成講座”のテーマで行い、100名以上の地域の方々が参加され、熱心に聴き、質問やディスカッションが行われた。</p>
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>個々の利用者の認知症について、日常的な理解をチームとして深めている事もあり、虐待及び拘束の問題は職員間でも理解されているが、入浴時等は利用者の羞恥心にも配慮しながらも全身状態を確認している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>さらに利用者・家族にご意見箱の存在・使用方法を周知し、活用してもらう。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18</p> <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>各ユニット定期的に配置交代し、職員が全入居者の状況を知り得る工夫をしている。ユニットで合同会議を月1回開いている。</p>		
<p><b>5.人材の育成と支援</b></p>			
<p>19</p> <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設内研修としてADL研修開催。外部研修も積極的に参加。研修報告を全体会の場で持ち、トレーニングの一環としている。</p>		<p>マニュアルを確立し、新人教育に活用する。</p>
<p>20</p> <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>2市2町グループホーム協会の勉強会を開催している。会場は持ち回りでグループホーム相互の訪問活動等取り組んでいる。</p>		<p>年1回総会開催と記念講演会、映画会等開催。勉強会参加するよう支援している。</p>
<p>21</p> <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>親睦会の実施で職員間の交流を深めている。兵庫県民間社会福祉事業職員互助会に加盟し、行事等参加、ストレス軽減を図る。</p>		<p>グループホーム自体での親睦会又は積極的な悩みやストレス解消の機会をつくる。</p>
<p>22</p> <p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年2回の人事考課、自己評価個別面接で職員個々の努力や実績を把握し、昇給等に反映させる。</p>		<p>自主的に研修参加希望する職員には、勤務交代等で配慮する。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>契約時に家族・関係機関から情報収集し、記録する。そして、それを踏まえて本人とコミュニケーションを取って確認する。入居直後は特に気を付け、快適な生活が送れる様に援助する。</p>	<p>本人とコミュニケーションを取り、その行動観察によって、本人へのケアプランに反映させる。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>契約時に本人・家族から不安・疑問を聞き、本人・家族への支援に役立てる。</p>	<p>入居後にも小さな疑問・小さな不安でもその都度話し合える関係を作り、よく話し合っ解決していく。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人の状態、家族の思い希望を聞き、サービス計画を立てる。できる事・できない事をよく話し合う。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>契約前に本人・家族に見学してもらい、新しい生活の場を紹介している。又、入所当初は在宅での様子をよく聞き、家族との連絡を密にし、本人の様子を伝え安心してもらう。</p>	<p>家族と関わりを密にし、本人とも関わりを持ってもらう。</p>
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>本人が本人らしく生活できるように、日常の作業等声掛けをしながら職員と一緒にする。この事によって、支えあう関係を築いている。</p>	<p>その人らしさを尊重し、得手・不得手を見極め一緒に成し遂げることで、ささやかな達成感を共有している。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者と共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	家族と連絡をよく取り、情報・現状を共有し、対等な関係を築き、共に利用者のケアをしていけるよう、ケアプラン・モニタリングの説明時に話し合っている。		介護者の集い等情報を共有し、家族が日常的な介護に積極的に参加できるよう支援する。
29 利用者との家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	常に情報交換を行い、家族と職員が良好な関係を築き、入居者が快適な生活ができる様に支援する。		家族も日常の介護に参加できるよう、色々な行事を行い、利用者・家族が共に楽しめるような場を提供している。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援  利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家族はもちろん、友人知人の来訪の時間の制限なく自由に受け入れている。外出外泊も自由、食事と一緒にとれるよう提供している。		施設内外の様々な行事を通して友人知人と今まで通り関わりがもてる様に支援している。
31 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係を把握し、お互い良い関係が保てるように配慮し、生活を楽しめるよう支援していく。		日常生活の中で、共に取り組める作業を提供し共に助け合い、生活を楽しめる支援を行っている。
32 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても家族に定期的に機関紙を送付し、施設の近況・行事等の案内をしている。		いつでも訪れる事ができる様にし、今までの関わりを断ち切らないように付き合いを大切にしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>個々にその人らしく暮らせるように、本人の希望・意向の把握に努め、情報を共有し職員間や家人と話し合う。</p>	<p>一人ひとりの希望や意向を把握する為に、職員がそれぞれ聞き取った事を日誌や個人ノートに記録し、職員間で共有している。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>利用者の個人の理解を深め、自分らしく暮らせる様、プライバシーを考慮しながら家族と連携を取り、こだわりの物品や生活リズム等日々の生活に生かす工夫をする。</p>	<p>行事や日常生活を通して家族と連絡を密にし、これまでの暮らしを考慮しながら、これからの暮らしの改善に努める。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>利用者一人ひとりの意向に添いながら心身状態に変化、現存能力を観察し、総合的な取り組みを行う。</p>	<p>日々の記録や申し送りにより、現状を点ではなく総合的に把握検討し、常に課題意識を持って取り組む。</p>
<b>2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日々のミーティングやグループホーム会議で本人が自分らしく暮らせるための場を持ち、変化に応じて介護計画の変更、見直しを行う。</p>	<p>日々の介護を慣れ合いにせず、初心に戻り学びの姿勢で望む。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>変化に応じてその都度職員間で話し合い、家族との連絡、主治医・訪問看護師を含めた話し合いの中で計画の見直しを行っており。</p>	<p>利用者の細かな変化を見落とさず、記録・報告・話し合いをし、臨機応変に対応する。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別に1週間の状態を把握出来る日課表を使用し、情報の共有をする。その他職員の連絡帳や処置ノート・個人ノートを活用し日々のケアに生かしている。		日課表・職員連絡帳・処置ノート・個人ノートやドクター往診の記録などを有効に活用し、一人ひとりのケアに努めている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ユニット ・ は30㎡の広さがあり本人とその同居人として2人で生活できる。同居人は介護保険で、在宅のサービスを利用する事ができる。		施設の行事にはグループホームの利用者の自由に参加している。
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	医療受診、介護保険制度に関する調査等、家族と連絡を取り、柔軟に対応している。		月～木曜日まで「のびのびルーム」という行事があり、又、金曜には手芸のボランティアがあり、希望者は選択して参加している。
41 他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	認知症に加え療養上の必要性の高い利用者は、本人や本人を取り巻く家族・関係者・職員で話し合い、本人にとってより良い支援に結びつくようにする。		
42 地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護・尊厳ある自立支援について、法人全体で取り組んでいる。事業所の1つとして地域包括支援センターの委託を受けた地域支援センターのぐち南があり、必要がある時は連携がとれる。		グループホームから在宅へ移行する希望がある時は地域支援センターと協働していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者がそれぞれ主治医を選択し、往診・受診している。		緊急時、日中夜間を通じて訪問看護・主治医と常にずばやい対応が出来る様になっている。
44 認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者各々の主治医の往診時に連携を取り、家族も交え、必要時には専門医の診断・治療につなげている。		
45 看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	グループホーム開設以来、週2回訪問看護師による健康管理実施。緊急対応を含め、職員も気軽に相談するとともに病識を深めている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族と職員は連絡を密にし、医療関係者と早期退院に向け連携している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアの取り組みは契約時に説明し、心身の状態変化のある都度、家族・主治医と話し合い、必要な方針を全員で共有している。		ターミナルに向かっては利用者・家族と医療関係者と意思確認を繰り返し行い、最善を尽くす。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	在宅で可能な範囲の医療で、終末期ケアに取り組んでいる。看取り加算申請し、医療関係者と連携している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>49</p> <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人・家族の意向により、住み替え希望がある場合、グループホームの本人情報は新しい居住先へ提供している。</p>		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50</p> <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>その人の誇りを損ねる事の無い様に職員間で、言葉・態度・記録の取り扱いにも気をつけている。</p>		
<p>51</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>聞こえにくい利用者には筆談で対応。納得、理解して頂ける様に繰り返し説明する。表現しにくい利用者にはペースを合わせてゆっくり説明している。</p>		<p>帰宅願望の為、外出される方には、一定の距離を保ち見守りする。近隣住民からの協力もある。</p>
<p>52</p> <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事・入浴・行事等の声かけはするが、本人の意志を尊重し、その人のペースに合わせて対応する。</p>		<p>その人らしい暮らしを大切にし、清潔・体調面には、日々確認しながら支援する。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53</p> <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の使い慣れた化粧品を使用したり、服を選びにくい利用者は職員と一緒にする。理容は行きつけの店に家族と一緒にいく方もある。最近は近隣の美容院を利用する利用者が多い。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同テーブルで一緒に食事をとり、さりげない配慮をしている。利用者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫を行っている。		食欲を高め楽しく食べられるような言葉かけや働きを行っている。
55 利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々の誕生日にはケーキでお祝いをしている。金曜日には業者からのまんじゅうを提供している。		意志疎通困難な利用者には、好みを把握して提供している。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	紙オムツ・紙パンツ・パットは利用者一人ひとりのその時々状態に合わせて使い分けている。		便秘予防に水分多め、野菜、ヨーグルトを摂取してもらうようにしている。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	意志疎通困難な利用者には、時間帯・長さ・回数を把握し、くつろいだ入浴が出来るよう支援している。利用者の希望にあわせた入浴支援。		利用者の不安や羞恥心・プライバシーの配慮を一人ひとりゆっくり入浴してもらっている。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ゆっくりと会話をし、お茶を飲んでリラックスしてもらい、居心地の良い雰囲気工夫し、休息をとってもらっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の材料の下準備(きぬさやのすじ取り等)その利用者の役割になっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品購入等の金銭を家族から職員が預かり、出し入れを出納帳に記入し、月1回コピーして家人に送付している。		
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	身体機能の低下、認知症の進み具合により、外出は活発に出来ない方が多い。家族との外出には、情報伝達を行っている。		母体施設主催の活動に参加を呼びかけ。体操、映画、陶芸、買い物、ゴミ捨てはその都度声掛けする。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事がある前に家族に行事のご案内を配布し、行事の時は家族同士の交流のよい機会となっている。		行事としての外出は設定していない。花見・盆踊り・クリスマス会などの年間行事はホーム内で家族もお誘いして実施している。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者一人ひとり違いがあるも、電話希望があればかけてもらい、手紙・ハガキなどの便りも届いている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	利用者の家族や知人が立ち寄ってくれたりする。積極的な働きかけはしていない。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	せいりょう園介護理念に基づき、職員全員で取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は鍵をかけず自由に出入りができ、センサーやブザーを設置している。東西出入り口には止め金で入居者自身で開閉し出入り自由になっている。		
67 利用者の安全確認  利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	出入り口にセンサーやブザーを設置し、いつでも出入りの様子を察知でき見守り等を行っている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬類は事務所内、鍵付きの金庫に保管。預り金、保険証は一括して金庫にて保管。金銭出納帳を記入している。ハサミ・爪きり等は利用者に応じて管理していただいている。		
69 事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりハット事故報告書を作成し、職場内だけでなく、会社全体に発信し情報交換及び再発防止に取り組んでいる。		
70 急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	基本的なマニュアルはある。個々の状態変化には会議での情報の交換をしている。		
71 災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防訓練を行っている。2部に分かれて日勤・夜勤を想定し行う。夏祭りなどで地域等の交流も行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居者の意志を尊重し、家族との細やかな話し合いの機会を多く持っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎月の体重測定をはじめ、個人記録に記入。異変があれば時間、バイタル測り訪問看護師と主治医に連絡する。毎日、個々の記録を書き申し送りを行っている。		
74 服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の必要な利用者の病識と薬の目的・副作用を知るように努めている。下剤の後の排便確認も行っている。		
75 便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩の声かけ、水分の補給、牛乳やバナナ・ヨーグルトなど提供している。		
76 口腔内の清潔保持  口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行っている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食やきざみ食・流動食用など個々に応じての食事提供を行っている。メニューは栄養士が立て、水分はいつでも取れる様にしている。トロメリンや水ゼリーも用意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種を毎年受けている。感染予防対策マニュアルを作成し、取り組みを行っている。寝具の熱処理を行っている。		
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は献立表に基づき業者より直接配達される。調理器具は食事担当、夜勤者等で消毒している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	出入り口はセンサー音で施錠する事なく確認できる。鉢植えの植物を置くなど心和む雰囲気を作っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール横のキッチンより調理の音・匂いも伝わり生活感がある。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに円卓を複数設置し、椅子の移動を行い利用者が使い分けている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>テレビ・カセットデッキ等で音楽を楽しむ利用者もあり、自由に過ごされている。</p>		
<p>84</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>毎訪室時にエアコン温度設定を確認し、喚起等もやっている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している</p>	<p>個々の必要に応じて工夫した整備をしている。階段・廊下には手すりをつけている。</p>		
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>利用者の出来る事・出来ない事を見極めて、洗濯干し・たたみ、シーツ交換を職員と一緒にやっている。</p>		
<p>87</p> <p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>玄関先に植木や花を植え水やりを日課とする利用者もおられる。</p>		

(  部分は第三者評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと )
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない</p> <p>ご家族よりの情報に合わせ、利用者同士あるいは利用者を職員間の日々の会話や1日の行動パターンより、各職員がそれらの事柄を掴む努力をしている。更には、利用者の心身の変化に対応できるよう知り得た情報を共有している。</p>
89	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>毎日の昼食と午前午後の間食の時間には、職員も利用者と同じテーブルにつき、会話を楽しみながら過ごしている。職員に対しての労いの言葉をかけて下さることもあり、馴染みの関係を深める場にもなっている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p> <p>一人ひとりのペースを重んじ、サービス提供側の都合を優先させてはならないことを常に念頭に置いて支援している。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p> <p>傾聴の姿勢を基本としながらも、意思疎通の困難な場面に於いては、根気よく見守り待つなど、各々の利用者に合わせてコミュニケーションの手法を用いることによって、信頼や安心感を得るよう努めている。又、誕生日会や年間行事等の開催により楽しみある暮らしになるよう考慮している。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p> <p>日中帯は開錠しているので、自由に出入りされている。車椅子使用の利用者も帰宅願望表出時には、職員介助で散歩へ出かけたり他ユニットを訪問するなど、意向に添うように努めている。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p> <p>健康管理、医療面については、週1回の訪問看護、各々の主治医の往診あるいは受診を受け、もたらされた情報は職員間に於いても共有できている。安全面ではバリアフリーの生活空間に合わせ、施設周辺には同法人の他事業所があり連携体制が取られている。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p> <p>傾聴の姿勢を持ちつつ、各々の利用者に合わせてコミュニケーション手法を用いて状況を把握し、要望や思いを汲み取るよう努め支援している。具体的な事柄については、ご家族とも交えて話し合い勧める。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない</p> <p>ご家族からの求めに対し、どの職員も対応できるよう情報の把握に努めている。実行している取り組みとしてケアプランやケース記録の活用、日々のミーティングや毎月の会議にあがった情報の共有、現場主任への確認などが挙げられる。これらを踏まえた対応を実践することで、ご家族より信頼を得ていると認識している。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>近しい親族の訪問が主で友人知人等、馴染みの人や地域の人々との関係は心身の低下とともに疎遠となっているのが現状である。しかしながら、定期的に訪問して下さるボランティアの方々や新たな馴染みの関係を築きつつある利用者もおられることから、プラス面に着目した支援に取り組んでいる。</p>
項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと )

97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	介護保険改正後、運営推進会議の参加者を地域住民・家族に呼びかけた。その他、同法人主催の学習会の定期開催も理解を深めていただく機会となっている。
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	看取り体制が取られているため、全介助利用者も数名居住しておられ、職員特に夜勤者の心身の疲労度は高い。そういう現状に於いても、懸命に生活しておられる利用者の姿に励まされ「ありがとう」の言葉に癒されながら心身のバランスをコントロールし、意欲向上につなげている。また、職務を客観的にとらえる視点を課題として、各々が取り組み実践するよう努めている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	入居後しばらく混乱がある方も、日数の経過と共に馴染みの関係を構築され、安住の場として認識されるようになる。全職員が各利用者に即したサービス提供に努めることにより、安心して生活できていると認識している。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない	来訪時あるいは電話等で細やかに情報提供を行っているため、安心感を持たれていると認識している。又、ケアプラン作成・モニタリングあるいはカンファレンスの折には、充分話し合いができるような場面設定を行っている。直接サービス改善の提案もあり、利用者のよりよい生活について共に考える機会も持っている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設以来、医療・看護の連携体制を取り、H18年4月から看取り加算を申請した。認知症高齢者が馴染んだ環境の中で最期まで生活者として暮らせるよう支援している。そのためには家族・医療・看護との連携を蜜にしている。今後は認知症高齢者の生き方、看取りから学んだ経験を地域へ発信することが使命だと考えている。